

[平成17年 6月15日産業振興委員会 - 06月15日 - 01号]

芝田 委員 おはようございます。公明党の芝田でございます。どうかよろしくお願ひいたします。クール・ビズが浸透しておりまして、皆さんも軽装で6月になって何か雰囲気がいいなというふうに思っております。私はネクタイを取ると、ちょっと締まりがなくなりますのでネクタイをつけさせていただきますけれども、本日は産業振興委員会、初めての質問ということで、しっかり頑張ってまいりたいと思います。項目としましては、北花田大型商業施設についてということで、ダイヤモンドシティ・プラウ、私、地元でありますので、この施設についての質問をさせていただきます。

今回の質問をするにあたりまして、私もその商業施設の北側のマンションに住んでるんですけども、私も金岡中学という新金岡団地の中の中学校卒業で、当時、野球部に入っておりまして、その当時からの場所が新日鐵の社宅ということで、同級生また同じクラブと一緒にしたメンバーもそこから通ってまして、またその今の施設の中に空き地があったり、またプールがあったり、本当に環境的にそういった大きな会社の社宅の施設ということで感じておりました。

今回調べていただきまして、過去のその土地の歴史ということで調べていただきましたら、私も知らなかったんですけども、昭和13年、大阪帝国大学、大阪大学の産業科学研究所の用地として国が取得したということでありま。戦前、国が大学のそういった研究所の施設として購入ということで、その後、戦後ですね、昭和34年にこの産業振興面において大阪府と当時の八幡製鐵株式会社の間で同製鐵所が臨海部に進出するというので、その社宅としてそこが使われたということになっております。そこで昭和37年には、そこが国の土地と等価交換しまして、八幡製鐵の土地と交換しまして、そこが八幡製鐵の土地になったということでもあります。もちろん今の面積よりも広くて、西側にあります公園等も含まれた大きな一帯がそういった土地だったということでもあります。地元でありますし、いろいろ私も対策委員会等で大きなショッピングセンターができて、また阪急百貨店、そしてまたジャスコ、そしてまた専門店ということで、いろいろ環境の問題、道路の問題とか、いろんなことがマンションの中で検討になりました。いろいろなか中で、皆さん心配してる中で、昨年の10月にオープンしまして、当初はいろんな渋滞等もありましたけれども、一応、はやっとなんかというふうになんか自分なりに思ってるんですけども、きょうはそれを検証していきたいなと思います。半年にもなりました、ここにおきましていろいろ、その当時からの雇用の促進があるとか、活性化があるというふうなこともたくさんありますけれども、堺市としまして、この産業振興の面から、この商業施設に何を望むか、その効果をお聞かせください。

谷口 商業流通課長 ただいま委員お示しの昨年10月にオープンいたしましたダイヤモンドシティ・プラウのその後の産業振興の面からの望む効果ということでもありますけれども、本市商業の商業力を示します中心性指数は、平成14年の商業統計で見ますと0.83であり、その後徐々に増加する傾向にはあるものの、依然として17%、金額にいたしますと1,200億円以上の市外流出が見られます。政令指定都市をめざす本市にとりまして、商業機能においても自立した状態が求められると考えております。

このような状況の中で、昨年10月にオープンし、390億円の売り上げを予定しておりますダイヤモンドシティ・プラウの店は、これまで市外に流出しておりました消費を引きとめるとともに、隣接する大阪市や松原市から顧客を引き入れるという面でも、本市の商業力を増加させることを期待しております。さらに、現下の厳しい雇用環境が続く中で、雇用の受け皿として新規雇用の場が創出されるという面でも大きな期待を持っております。以上です。

芝田 委員 ありがとうございます。今、答弁の中で年間の売り上げが大体400、390億ということと、私いろいろな新聞とか、今までもその関係する記事を見てたんですけど、なかなか公表してないということと、今回調べていただいたら年間約400億ということで、この数字が、売り上げが肝いりで始まったこの堺市の北東部の玄関口の商業地として、どれぐらいの規模か、他の大型商業施設と比べて比較をお聞かせください。

谷口 商業流通課長 堺市内での他の大型商業施設の比較でございますけれども、これも平成14年の商業統計調査結果によりまして、高島屋泉北店を中心とするパンジョの年間販売額が約330億円、高島屋堺店を中心とするアップルの年間の販売額が約270億となっております。これらを見ましてもダイヤモンドシティ・プラウが想定しております、先ほど委員ご指摘のように約400億という売り上げは、これら施設を上回り市内最大規模となっております。以上です。

芝田 委員 市内最大規模というか、まだ予定ですけども、その域で今進んでるということでもあります。それでは、この北花田のこの大型商業施設、またこういう北部分は住居部分ということで、そういった部分で、どのように堺市はこの施設にかかわってきたのかお聞かせください。

谷口 商業流通課長 ダイヤモンドシティ・プラウの店に際しまして、堺市がどうかかわってきたかということとでございますけれども、これにつきましては、平成12年6月に施行されました大規模小売店舗立地法、この法に基づきまして大型店の立地によって生じる周辺的生活環境の保持を指導するとともに、あわせて地元の商業者が行う活性化へ向けた取り組みに対しまして支援を行ってまいりました。以上です。

芝田 委員 半年たちまして、いろいろな効果というのは達成されたか、次聞きたいと思うんですけども、商業振興面においての効果ということで、どのように達成されたか現時点での考えをお示しください。

谷口 商業流通課長 現時点での産業振興面での効果の達成ということでございますけれども、まず、雇用に関しましては約3,100名の新規雇用が創出されました。そのうち8割は地元雇用であると聞いております。雇用の創出の面からは一定の効果があったものと考えております。もう一方の商業力の強化につきましては、これにつきましては次回の商業統計調査、平成19年でございまして、この結果を踏まえずに現時点で総合的な判断はできませんが、事業者から聞くところでは、一部では苦戦している店舗も見られるということでございます。以上です。

芝田 委員 今、商業面の効果の中で苦戦が一部見られるということでもありますけれども、その辺詳しくお聞かせください。

谷口 商業流通課長 苦戦の原因でございますけれども、まず、品ぞろえを初めとする地域ニーズとのミスマッチなど、各個店ごとに経営上の課題は異なりまして一概には申し上げられませんが、事業者側としてはアクセス面で一部課題があるということで、現在この課題に対しまして検討をされておるというふうに向っております。以上でございます。

芝田 委員 ありがとうございます。苦戦ということで、確かにローカル、言い方は悪いですけども、心齋橋とか難波とか梅田に比べれば、堺市の北のとこなんで、一応ローカルということで、阪急百貨店等におきましても都心部と同じような品ぞろえとか、また客層ですね、またと失敬するということは以前から言われておりましたし、また実際オープンして、どれぐらいのお客さん、また客層が、またどれぐらいリピーターがあるかということも今調べておとこだと思うんですけども、そういった内部の問題と、そしてまた今言われたようにハードな部分というか、周りのそういったアクセスに関する課題があるというような答弁でありましたけれども、今、大店立地法の話も先ほど出ましたけれども、大型商業施設についての本市の見解をお聞かせください。

谷口 商業流通課長 大型商業施設に対しまして堺市の見解でございますけれども、大型商業施設は、地域消費者に利便性を提供するとともに、先ほど答弁申し上げましたように、新たな雇用を創出し、さらには消費の市外流出を引きとめ市外から新たな顧客を引き入れると、そういう面でも本市の商業力全体の向上が期待されることとありま

す。一方、大型商業施設の事業活動が交通問題に代表される周辺の地域環境、また商店街、小売市場等の地域商業者

に対しまして及ぼす影響もあることは認識いたしております。以上です。  
芝田 委員 過日の大綱質疑の中で大型商業施設に関しての市長の見解もありまして、今その確認を述べてもらったと思うんですけども、私は、もうそれに関しては同感であります。できるだけ協力していくというかね、そういったことが実際はやはり商業の活性化が雇用の創出であります。また地域経済の活性化になるわけですから。ただ、見過ごしてはならないのは、やはりこういった計画が進む中で、当初から危惧されてたことが実際オープンしていろいろな問題が起きて、その後動くというね、これは私もいろいろ対策委員会にありましたので、警察もなかなか動かない、また堺市もいろいろやっていたけれども、なかなか警察とかに行くと、市を通してでもなかなかそれはオープン効果で一時期ですというふうな形で、実際動かないということですね、実際困るのは買い物客であり、また地元、また市民の方だというふうな思っております。

それで特に、私、地元で道路の渋滞の件をちょっと2点ほどお話ししたいと思うんですけども、オープン当初は道路渋滞も大体入るのに2時間ぐらい、また出るのにも、これは極端ですけども3時間ぐらいかかったというところで、ことしの1月でも、やはり土・日また祭日になるのにも1時間、また入るのにも1時間というふうな形で、平日はかなり緩和されておりますけれども、そういったことで道路の拡幅もですね、また近くのとこでは、もう6月くらいから拡幅する場所もできたりしてあるんですけども、エレベーターの件だけはなかなか前に進まないということと、大変いろいろ今回のこういった施設の問題で地域でいろいろ語る会をとらしていただいたときに、半数ぐらいいはこのエレベーターの話が出てきております。

といいまして、これは当初の計画で阪急が中心になって進めていく中で、もちろん新日鐵がその土地を持ってるということと、その事業者の中で、その地下と、北花田駅を地下でくぐって、エレベーターも設置する、その費用も下額出すというふうな話が広まっております、一たん計画がとんざししまして、事業者主体は阪急が1店舗という格下げの形をとりましたので、そういった中で飛んできましたという、それでこの堺市の交通バリアフリー基本構想にもそういった意味では入っていますけれども、予算がとれないという状況であります。

きょうは所管外で都市計画部の方も来られてますので、この点一、二問質問して、後段に行きたいと思っております。交通バリアフリー法では1日の利用者数が5,000人以上の鉄軌道駅がバリアフリー化の対象となっております。北花田駅は利用者数から見てバリアフリー化の対象となっております。平成15年度の堺市が北花田バリアフリー基本構想の策定を行ったと聞いておりますが、この中で現在の北花田の利用者数ですね、オープン前とオープン後の利用者数を聞きたいと、そしてまた設置状況はどのようになっているかお聞かせください。

岡部 都市計画部副理事兼交通計画課長 それでは地下鉄御堂筋線北花田駅の利用者数について、まずお答えいたします。北花田駅に確認いたしましたところ、商業施設は北花田駅以前の平成16年4月では1日当たりの利用者数は約1万5,000人、またオープンした後の直近月でございます先月5月の1日当たりの利用者数は約2万1,000人となっております。

続きまして、今後のエレベーターの整備予定ですが、そういうことについてお答え申し上げます。駅へのエレベーター設置につきましては、大阪市交通局が設置することになっておりますので、エレベーター設置位置や建設費用、工事期間等について協議を行っているところでございます。その中でエレベーターの設置場所につきましては、常盤寺線と大堀堺線の交差点付近で、東南の歩道上で検討しておりますが、エレベーターの整備につきましては多大な費用を要するため、鉄道事業者におきましては、国を初めといたします補助金が必要条件であるとのことでございます。

なお、同駅の場合はエレベーターの設置に支障となります地下埋設物の移設等が必要でございますので、設計から工事完了まで約3カ年を要するとのことでございますが、早期実現できるように積極的に調整を行ってまいりたいと思っております。以上でございます。

芝田 委員 今、補助金のお話が出ましたけれども、平成13年度にこの地下鉄御堂筋線の南側の地下鉄の新金岡駅がエレベーターが地上から改札口までできたんですけども、この当時の工事総額が約1億くらいということで、今回、今の答弁でありましたように地下の埋設物の移設も必要ということで、かなりそういった意味では工事費がもつとかかるかなというふうな思っておりますけれども、その当時、平成13年度の補助金の出し割合ですけれども、ばくつとですが、堺市がやはり3分の1、そしてまた事業者側であります大阪市、また大阪市交通局が約3分の1弱、3分の1強が国と府ということとありますが、ご存じのように堺市は明年4月に政令市移行に向けて今進んでるわけですけれども、この堺市が政令市になったときに、この辺の補助制度のスキームはどのようにするのか、また堺市としてどのように取り組んでいくのか、最後に都市計画部の部長さんにお答えしたいと思います。よろしく願います。

南笠 都市計画部長 ただいま委員よりご指名がございましたので、私の方からご答弁申し上げます。政令指定都市になったときに補助の内容やスキームがどうなるのかということのお尋ねでございますが、現在、大阪市交通局及び大阪府と協議中でございます。現時点におきましては明確にはなっておりません。このような状況ではございますが、高齢者、身体障害者等、だれもが移動しやすく、安全、快適で活力あるまちづくりを推進している本市としましては、国を初め大阪市交通局等とともに積極的に協議を重ねてまいりまして、先ほど交通計画課長がご答弁いたしましたように、エレベーター設置の早期実現に向けまして最善を尽くしてまいりたいというふうな考えます。以上でございます。

芝田 委員 それでは、最後の質問ですが、今後この地域のダイヤモンドシティ・ブラウの今後の課題として、商業活性化において、この地域をどのように考えているかお聞かせください。

谷口 商業流通課長 平成14年度に策定いたしました堺市小売商業振興ビジョンでは、この北花田地域の将来像を産業に加えて周囲の自然や娯楽施設などが調和した豊かな生活を満喫できる地域としてとらえております。今後はこのダイヤモンドシティ・ブラウを核とし、地域コミュニティ対応の商業、サービス機能の導入などの事業を展開するとともに、地下鉄御堂筋線の各拠点との連携強化を進めていくべきであるというふうな考えております。以上でございます。

芝田 委員 最後、要望でありますけれども、答弁の中で先ほども言いましたけれども、予定売上高が390億と、ということで市内最大の規模の商業地であると、そしてまた新たな雇用創出、地元雇用も創出している。そしてまた消費の市外流出をとめて市外から新たな顧客を引き入れる。そしてまた、人口増加率もこの北支所は世帯におきましても、また人口をおさめして一番伸び率が高い地域であります。そういった意味で、まだまだ潜在性というか、可能性があるように思います。そういったように今上げたように、堺市の商業活性化になくはならない地域になりつつあります。多くの点でも効果が私は期待できるというふうな思っています。

また、マイナス点としては、市が、また行政がしっかり働きかけなければマイナスの点もクリアできると、例えば今言われましたように、エレベーターの設置、そしてまた環境整備等も一番活性化ができるというふうなことであれば力を入れていただきたいなと思います。そして商業力向上のために市として、行政として所管が違うからそれはということとを、弊害をなくして最大限に努力していただき、そしてまた、この地域で都市活力及び商業力の向上に寄与して、堺市が寄与して大型商業施設の成功モデルを必ず構築していただきたい、またそれがほかの地域におきましても私はいろんなメリットが生まれるものと信じておりますので、しっかりと皆さんに頑張っていたいただきまして、自立した自治体にとっては不可欠な商業活性化、商業振興でありますので、どうかよろしく願います。

します。以上で質問を終わります。

産業振興委員会 6月